

一般社団法人 日本創傷外科学会

## 専門医試験

～筆記試験過去問題集～

第 15 回専門医試験

問題1) 顔面神経の分枝と、その支配する筋肉の正しい組み合わせはどれか。

1. 側頭枝一側頭筋
2. 下頸縁枝一咬筋
3. 頸枝一胸鎖乳突筋
4. 頰筋枝一口角下制筋
5. 頰骨枝一内側翼突筋

問題2) 外頸動脈の分枝で誤りはどれか。

1. 顔面動脈
2. 後頭動脈
3. 頸横動脈
4. 上喉頭動脈
5. 上甲状腺動脈

問題3) 眼窩を構成する骨で誤りはどれか。

1. 篩骨
2. 涙骨
3. 蝶形骨
4. 口蓋骨
5. 側頭骨

問題4) ケロイドの好発部位でないものはどれか。。

1. 三角筋部
2. 下頸部
3. 肩甲骨部
4. 手掌部
5. 耻骨上部

問題5) 肥厚性瘢痕について誤りはどれか。

1. 内服薬として抗アレルギー薬を用いることがある。
2. 副腎皮質ステロイドテープ薬は良い適応である。
3. シリコーンジェルシートは予防や治療に用いられる。
4. 保険適用外治療としてレーザーを用いることがある。
5. 組織学的検査において硝子化した膠原線維が特徴的である。

問題6) ケロイドの放射線治療について誤りはどれか。

1. 小児への術後放射線治療はできるだけ避ける。
2. 術後放射線治療として電子線を用いることが多い。
3. 耳垂は他部位と比べて照射量を減らすことができる。
4. 1回照射線量と照射回数はケロイドの再発率に影響しにくい。
5. 術後照射では術後72時間以内に照射するのが望ましいとされる。

問題7) シャルコー足の原因として最も考えられるものはどれか。

1. 虚血
2. 陷入爪
3. 静脈うつ滞
4. 足底筋膜炎
5. 糖尿病性ニューロパシー

問題8) 静脈性潰瘍について正しいものはどれか。

1. 深部静脈の閉塞が原因である。
2. 治療の原則は局所皮弁術である。
3. 下腿の圧迫包帯によって増悪する。
4. 動脈性潰瘍よりも浅い潰瘍のことが多い。
5. 患者への生活指導としては、できるだけ立位で過ごさせる。

問題9) 褥瘍について正しいものはどれか。

1. 創部を円座で除圧する。
2. 治療としては、筋皮弁が第一選択である。
3. 仙骨部の褥瘍には薄筋皮弁が用いやすい。
4. 大転子部の褥瘍には大腿筋膜張筋皮弁が用いやすい。
5. 坐骨部の褥瘍には transverse lumbosacral back flap が用いやすい。

問題10) 足から採取できる組織について正しいのはどれか。

1. 内側足底皮弁は逆行性に挙上出来る。
2. 足底荷重部は全層採皮部として有用である。
3. 足底からの植皮片は顔面との color match に優れる。
4. 下腿交叉皮弁による再建は高齢者に良い適応である。
5. 胫腹神経は採取に伴う神経脱落症状がなく神経移植に適している。

問題 11) 下腿のコンパートメントに含まれないものはどれか。

1. Lateral compartment
2. Medial compartment
3. Anterior compartment
4. Deep posterior compartment
5. Superficial posterior compartment

問題 12) 胸骨骨髓炎の治療に用いられないものはどれか。

1. 大網弁
2. 大胸筋弁
3. 腹直筋弁
4. 広背筋弁
5. 肋間筋弁

問題 13) 熱傷において重傷熱傷と評価されるものはどれか。

1. Burn Index が 8 であった。
2. 热傷に加え、骨折を合併していた。
3. Prognostic Burn Index が 75 であった。
4. 90 歳男性でⅢ度の熱傷面積が 5% であった。
5. 30 歳男性でⅡ度の熱傷面積が 15% であった。

問題 14) 热傷創に対する tangential excision について誤っているのはどれか。

1. DDB に対して行う。
2. 受傷後 7 日以降に行う。
3. 手背はよい適応である。
4. 点状出血が見られるまで热傷創を切除する。
5. 热傷後早期の組織壊死の拡大を防ぐ目的で行う。

問題 15) 化学損傷について誤りはどれか。

1. 治療の第一は早期の中和剤による洗浄である。
2. アルカリによる損傷は深達性であることが多い。
3. フェノールはポリエチレングリコールで拭き取る。
4. フッ化水素による損傷にはグルコン酸カルシウムを局所注射する。
5. クロム酸による損傷では、傷害されたすべての組織を早期に除去する。